

全日本教職員組合 養護教員部ニュース

2018年10月

NO. 128

発行：情宣部

保健室からの発信 2018 夏の全国学習交流集会 in 福島 開催

7月28日～29日、「保健室からの発信 夏の全国学習交流集会」が福島で開催され、全国から141人の仲間が集まり学習と交流を深めました。

オープニングは福島県立埴工業高等学校和太鼓部のみなさんによる力強い演奏で元気に開幕し、記念講演は「愛着障害と子どもたち～子どもを育むために学校・保健室でできること」と題して、児童精神科医の柘屋二郎さんより、お話しいただきました。



愛着障害については参加者のニーズが高く、各々の保健室で対応する子どもたちに重ね合わせながら聞いた人が多く、「発達と愛着の問題は避けられない状況で、その見極めをして困っている子どもを支えられるようになりたい」などの感想や「もっともっと聞きたかった」というたくさんの声が寄せられました。また、実際に先生が出会われた被災地の子どもたちの様子ももっと聞きたかったという感想もありました。しかし、愛着障害の子どもたちの特徴的な様子や複数の目と手で支援することの大切さなど、多くを学ぶことができました。

開会集会に引き続き、自主講座では「子どもたちのためにできること～保護者とともに放射能と向き合って～」と題して、わたり福祉会さくら保育園園長安彦孝さんより、震災・原発事故後も様々な事情で避難できない保護者や園児のために休まずに保育を続けた実践が語られました。震災前の活動の再開を目指し、子どもの安心・安全を第1に取り組む職員の熱意に感銘を受けると同時にそれに予算を投じない国の姿勢に怒りを覚えました。

その後、夕食交流会では、恒例のブロック紹介などで沸き、次期開催地の富山からは「ささら」を手に「こきりこ」も披露されるなど、楽しいひとときを過ごしました。今回は久々の温泉宿を会場とした集会で移動にも時間の余裕があり、ゆっくり過ごすことができ、「他県の先生方のお話を聞くことで保健室の仕事について考え直すことができた。同じ仕事を各地でしていることを改めて感じ、やる気が沸いた」といった夏学ならではの感想も寄せられました。



2日目は5つの分科会で計8本のレポートが報告されました。それぞれのレポートから学び、討論の柱をもとに活発な論議が繰り広げられました。

今年は福島での開催ということもあり、閉会の翌日にオプションとして、被災地フィールドワークを企画しました。たくさんの参加があり、バス2台で被災地を廻りました。広がる美しい緑のなかに依然と積まれた放射能汚染土の黒い袋にまだまだ終わっていない原発事故を目の当たりにした思いでした。来年もまた、仲間を誘って、富山集会に参加しましょう！

(松原 美穂)